

(有) 根津工業所

一般特殊溶接

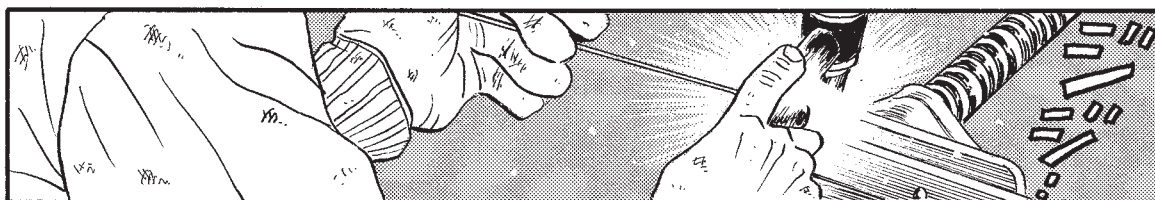
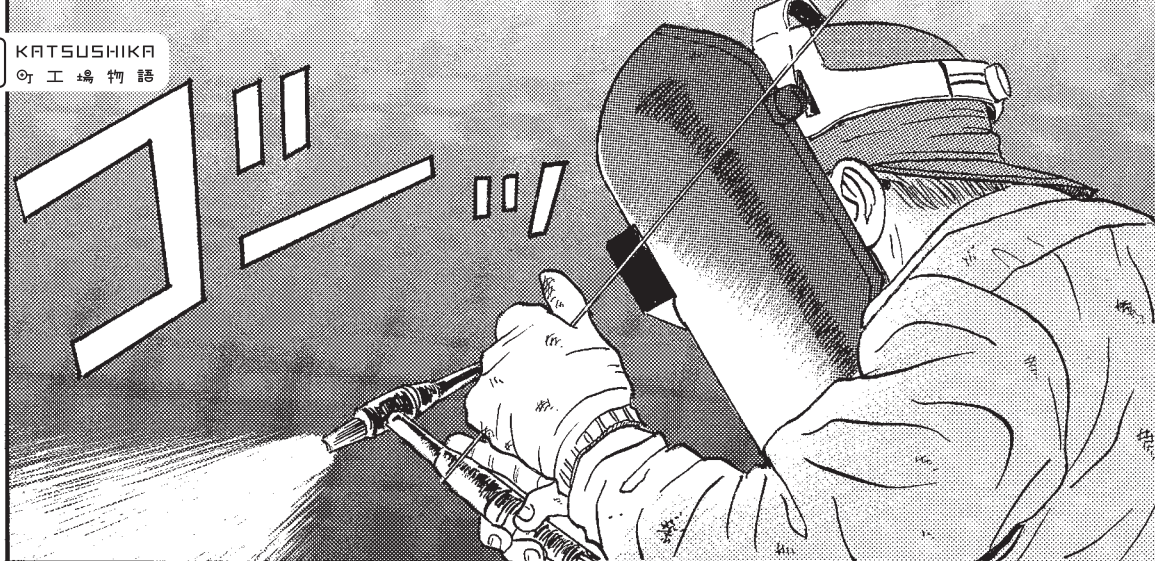
葛飾区立石 2-24-7

TEL 04-767-8310
FAX 04-767-8311
E-MAIL 04-767-8312
04-767-8313

葛飾ブランド「葛飾町工場物語」

街角の「鉄」医者
～溶接加工品～
有限会社 根津工業所

作・桂田健治

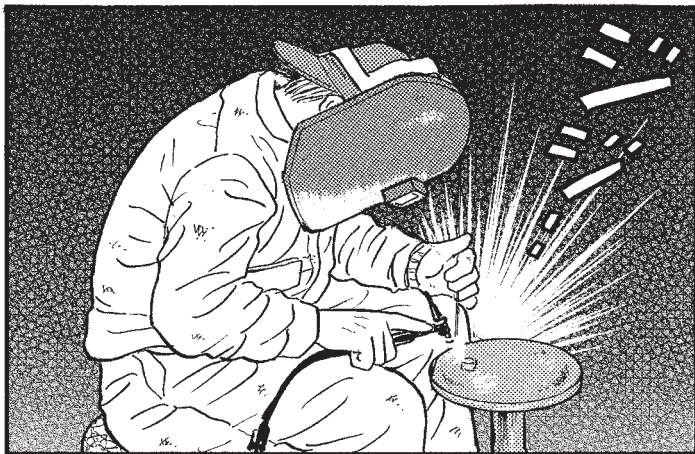
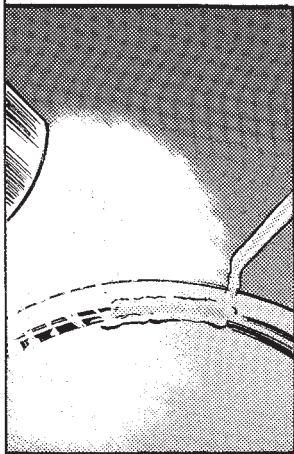


(有) 根津工業所 社長
根津秀吉 (84)

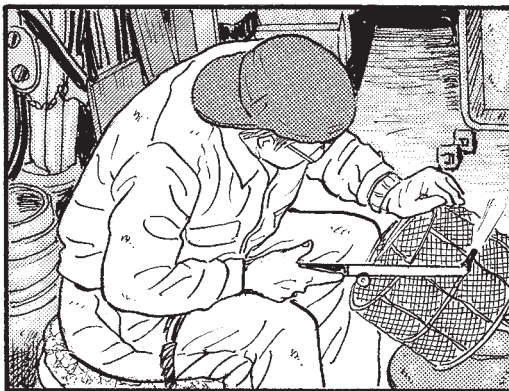
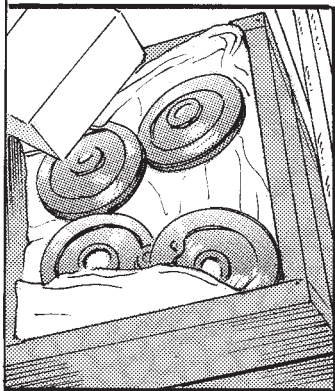


ウム...

ミリ単位の
細かい仕事から



大手筋の
金型や部品など
あらゆる仕事をこなす



日用品の
補修……

昭和35年に
ここ立石で
創業した



昭和15年に
溶接工場に入社
その後
戦争に行き
復員後に
入谷の
溶接工場に
10年間
つとめ



営業なんて
一度もしたこと
ないんだけどね



腕一本
身ひとつで
50年……



酸
素
ガ

まあ「鉄の医者」と
いったところかな

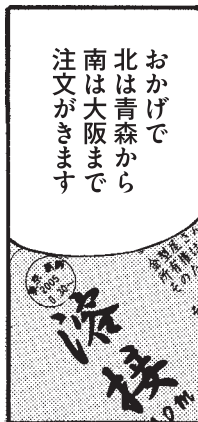
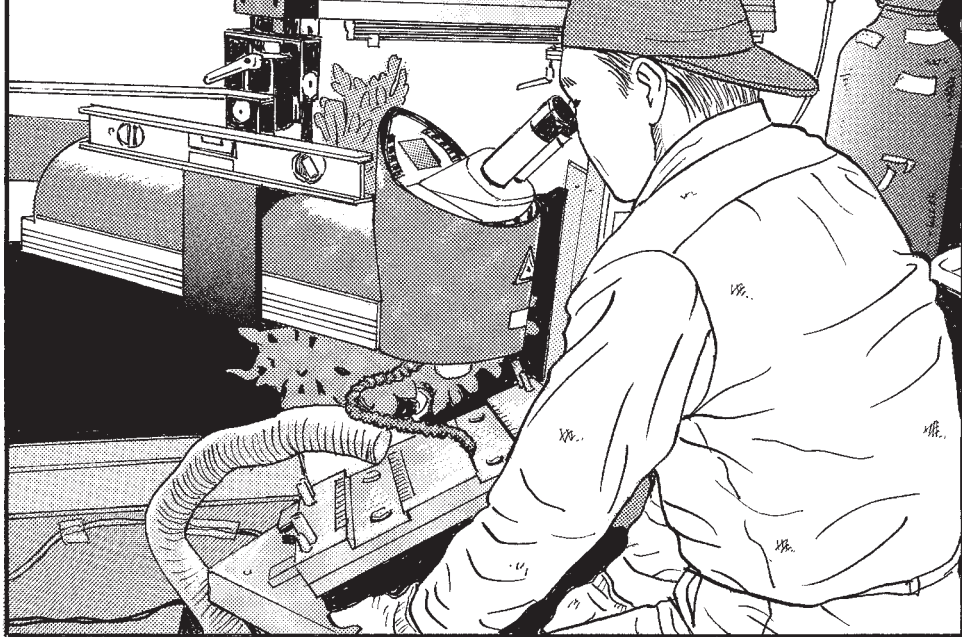
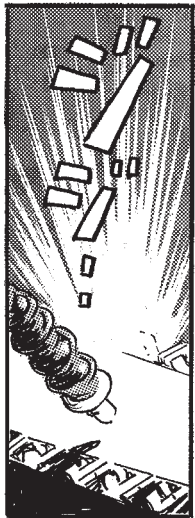
客から
品物の
「症状」を聞き

「治療」を
施していく

義理の息子
千葉徳行氏

相変わらず
儲かんねえ
やり方してんなあ

有限会社
根津工業所
〒250-0201 千葉県千葉市美浜区根津1-1-1



おかげで
北は青森から
南は大阪まで
注文がきます



あとボクは
ホームページも
作ってます



第二工場では
レーザー溶接機を
導入しました

近年の
高度な金型技術
発展に伴ってね



まったく
素人は
これだから

レーザーは
万能的じゃ
ないってーの



はい…
ホームページ
見て…
えっ?
レーザーだから
何でもできる
だろうって



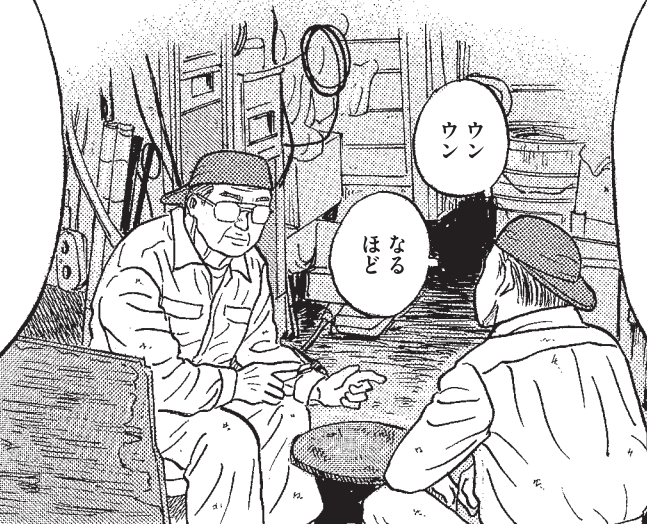
おやじ
義父は
尊敬してるけど
生き方は
違うね



おやじ
義父
ちよっと
教えてくれ!



でも結局
義父^{おやじ}のところで
仕事をこなす中で
学んだものだけが
役に立ってる



ウン

なる
ほど

実は
サラリーマン辞めて
溶接職人になる前
一年間職業訓練校で
学んだんです

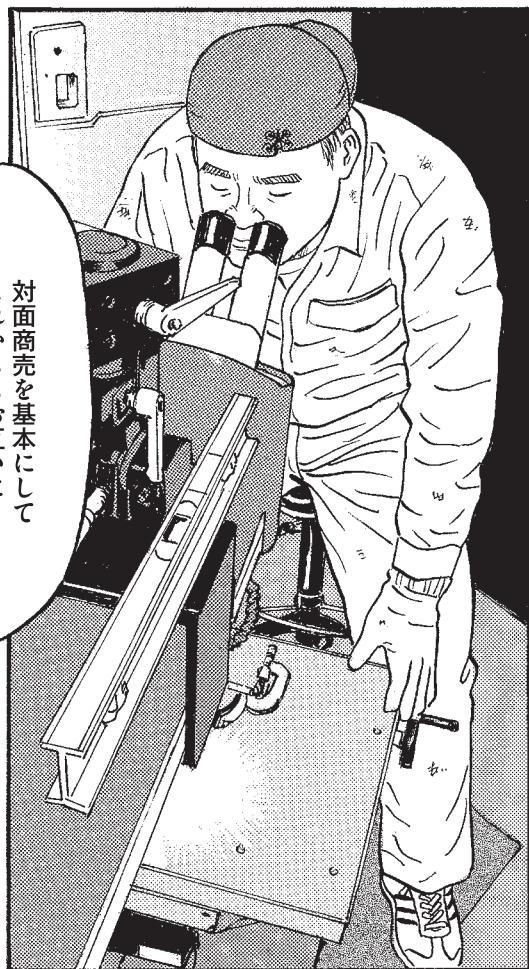
そういう
意味では
義父^{おやじ}は
表彰されても
いいくらいだ
と思うよ



溶接は
経験が
重要なんです



対面商売を基本にして
これからお互いに
いい仕事をして
いきたいね



KATSUSHIKA
町工場物語

認定

有限会社 根津工業所

街角の「鉄」匠者 **金型・機械部品等補修溶接技術**



認定品名

溶接技術

(有)根津工業所は、金型や機械部品等の溶接技術による補修を主要業務としており、「製品」はない。従業員は2名と小規模だが、対象金属により異なるさまざまな溶接、さらにレーザー溶接と多様な技術を駆使し、日曜金物の補修から超精密金型補修まで幅広く対応している。根津社長は技術力の高さには定評があり、「とくに、鋳物溶接の技術に関しては、おそらく関東一円に匹敵する技術を有する人はいないのではないか」と義理の息子千葉氏が評するほどである。

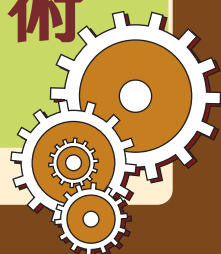


84歳の根津社長。持ち込まれる仕事を次々とさばっていく

有限会社 根津工業所

所在地：葛飾区立石2-24-7(第一工場)
葛飾区立石2-1-4(第二工場)
電話番号：03-3697-7413(第一工場)
03-3693-8334(第二工場)

代表：根津秀吉
業種：金型・機械部品等補修溶接
従業員数：2名





持ち込み客の目の前で即溶接、 行列のできる溶接屋

京成立石駅にほど近い住宅地の一面に、小さな古びた町工場がある。間口のガラス戸を全開にし、表通りから何もかも見えてしまう作業場で、根津社長は小さなストールに腰掛けて、アーク溶接（電極間の放電を熱源として金属を溶融させる溶接法の一つ）に取り組んでいる。

その作業を、作業場の入り口で立つたまま黙々と見守る2〜3の人々がいる。いずれも何がしかの金属製品を持っており、根津社長に溶接を頼みたくて順番待ちをしている人たちなのである。

社長は、客から品物の「症状」を聞き、てきぱきと「治療」を施していく。どの「治療」もせいぜい数分程度で終え、次の「患者」へと移っていく。その間にもひとり、車で乗り付けた客がある。車のナンバープレートには「袖ヶ浦」の文字があつた…。

「まあ、鉄の医者 といったところでしょっか」

これが、根津工業所（第一工場）の日常的な風景である。社長は「まあ、鉄の医者といったところでしょうか」とやや恥じらいをこめて、自分をそう表現する。「溶接以外の相談も多い。ねじが噛み込んで取れない、と持ちこまれたも

のに熱を加えたりして、何とかはずしてやったり…。」その場で溶接を施すなどして解決するものが多いが、大手筋の金型や部品の補修など、ある程度の数をこなさなければならぬ依頼もある。「そんな時は、納期はこちらの言うまま。金額も言うまま」と微笑む。東北などの遠隔地から、補修してもらいたいものはいきなり宅配便で届けられるようなこともある。根津社長は84歳。昭和15年に白金下町の溶接工場に入社し修行した後、兵役でソ満国境に送られ、敗戦後は捕虜としてシベリアで食料倉庫の番人に従事させられた。昭和24年に復員後、入谷の溶接工場に入社し、10年間本格的な溶接技術を習得した。昭和35年に現在地で独立創業して以来、「営業など一度もしたことがない」という。腕一本、身ひとつで50年近く仕事を続けて来た職人の誇りがうかがえる。

レーザー溶接機導入で さらに守備範囲を拡大

当社では、鉄・鋳鉄、アルミや各種合金などさまざまな材質に対する対応を行っており、溶接方法もテイク溶接（タンクステン）を電極として放電させることにより溶接を行う、アーク溶接の一種を中心に、ミグ溶接（不活性ガスのみを用いて大気を遮断し溶接する方法）、マグ溶接（不活性ガスと炭酸ガスを用いて大気を遮断し溶接する方法）などの組み合わせで

対応してきた。

平成18年に、より精密な溶接が可能となるレーザー溶接機を第二工場に導入した。近年高度な金型技術の発展に伴い、微細部分の肉盛り溶接の需要が増加したためである。従業者規模わずか2名の小規模工場でレーザー溶接機を導入する例は、まだあまりないという。第二工場では、社長の義理の息子である千葉徳行氏がレーザー溶接機で超精密溶接に取り組んでいる。

熟練と最先端機器を有する葛飾の小さな町工場が、日本のものづくりを支える重要な役割を担っている。



レーザー溶接に取り組む、社長の義理の息子千葉氏。ハイテク機器とローテクな熟練技術を駆使し、幅広い材質に対応できるのが（有）根津工業所の強みである